

## ISDE2018 をウィーンで主催

ISDE 会長 北川雄光（慶応義塾大学医学部外科教授）

この度、2018年9月16-19日オーストラリア ウィーンにおきまして society President として第16回 ISDE 世界総会を主催させていただきました。日本を離れた遠隔地での開催であり、プログラム構成以外には会長が一切関与できない特殊な条件下で、運営に大変苦勞いたしました。皆様の多大なる御尽力を賜りまして何とか無事開催することができました。プログラム策定、運営に際して多大なる御指導、御支援を賜りました日本食道学会会員の皆様に心より厚く御礼申し上げます。お陰さまで日本から265名もの皆様にご参加いただき、2014年（Vancouver:686）、2016年（Singapore:800）を上回る過去最高の953名にご参加いただきました。恒例となっております ISDE-JES ジョイントセッションでは、食道疾患治療に関する日本のリーダーの皆様、圧倒的に優れた技術をビデオにてご披露いただき、多くの聴衆から絶賛をいただきました。また、今回は食道胃接合部癌をテーマとして国際胃癌学会とのジョイントセッションを開催し、本学理事長の松原久裕先生、国際胃癌学会事務局長の佐野 武先生にも貴重なご講演を賜りました。私自身が努めさせていただきました Presidential lecture では Controversies in Esophagology-East and West, Esophagus and Stomach-と題して、欧米とアジアの食道疾患研究の方向性を示し、食道と胃が一体となった上部消化管学の概念を提唱させていただきました。また、井手博子先生、安藤暢敏先生からご提供を頂いた資料を元に、日本を発祥の地とする ISDE の歴史を振り返りながらその将来像に関して私見をのべさせていただきました。会場となったウィーン大学は1365年に創立されたドイツ語圏最古の歴史を誇り、胃癌外科手術の父と呼ばれる Theodor Billroth が教鞭をとったことで知られています。ポスター会場として使用された中庭の Billroth 像の前では、多くの参加者が記念写真を撮る光景が見られました。Gala dinner は荘厳なバロック建築のウィーン市庁舎で開催され、国境を超えた交流の場となっていました。本邦における消化器外科の父、中山恒明先生が創設されたこの ISDE を、消化器外科学に所縁の深いウィーンの地で主催させていただいただけましたことは、食道外科医の一人としてこの上ないはと存じております。

次回 2020 年 9 月の ISDE は、バレット腺癌の世界的権威として知られ、エドモントンにある Kansas Medical Center の Prateek Sharma 博士を会長としてカナダのトロントで開催されます。ISDE 40 周年記念事業も予定されておりますので、日本食道学会の皆様には多数の御参加を賜りますようよろしくお願い申し上げます。日本食道学会 NEWS Letter No.24 (2018 年 11 月) 国際委員会報告より転記。

### 第 16 回 ISDE 世界総会会議の写真

